令和 7 年度
教職課程自己点検・評価報告書
（令和 6 年度対象）

中部大学現代教育学部
中部大学大学院教育学研究科

令和 7 年 11 月

中部大学　教職課程認定学部・学科（免許校種・教科）一覧

・現代教育学部（幼児教育学科：幼一種免許状)、(現代教育学科現代教育専攻：小・中・特一種免許状　理科)、(現代教育学科中等教育国語数学専攻：中一種免許状　数学科・国語科）
・教育学研究科（教育学専攻：幼専修免許状、小専修免許状）

全体評価

幼稚園教諭一種免許状の課程と保育士資格が取得可能な課程をもつ幼児教育学科、小学校教諭・中学校教諭（国語・数学・理科）一種免許状、および、特別支援学校教諭一種免許状の課程をもつ現代教育学科の 2 学科により構成される現代教育学部は、教育や保育の現場に優れた人材を送り出すことを大きな目的とした学部である。

こうした目的を実現するためには、入学前から卒業後までを見通した教育・支援体制が必要であるだけでなく、小学校等の教育機関を取り巻く今日的な状況を正確にとらえ、時代のニーズに対応できる柔軟性を備えた学部教育の実現が肝要である。

現代教育学部では教職課程自己点検ワーキンググループを設置し、教職課程にかかわるカリキュラムを構成する授業や実習だけでなく、入学前の段階における高校生への情報提供から、卒業生に対する支援体制といった広範な時間軸に沿った点検活動を行った。さらに､小学校教員等の教職を目指す学生に対して､各学科の教員が中心となり行っている様々な支援の現状や課題等についても、今回の自己点検評価を通して見直すことができた。

近年、教育や保育の仕事に携わることに対するネガティブなイメージの拡大などが原因となり、教職を目指す学生が減少傾向にあるだけでなく、教員免許状を取得しても教職に就かない学生が増加するなどの課題が散見される。こうした今日的な課題に対して、幼児教育学科では、インスタグラムなど SNS を活用した広報活動を積極的に展開し、幼児教育に対する高校生の関心を高める活動を行っていることなどを報告書に紹介している｡また、教職課程センター（分室）と現代教育学科とが連携して､「みんなで学ぼう会」という教員と学生との意見交換の場を設けたことも紹介している｡「みんなで学ぼう会」での意見交換を通して、教職の魅力を学生に感じ取らせ、教職を目指す意識を高揚する取り組みも報告している。

さらに、幼児教育学科においては「幼児教育セミナー」を開催したり、現代教育学科においては小中学校等に採用された卒業生を地域ごとに組織化した同窓会活動の推進を支援したりするなどして、卒業後も学生を支える体制を構築しつつある。

こうした活動を含め、教職にかかわる諸活動を発展的に展開するには、現代教育学部の教職員を中心とした多くの関係者の支援や協力が不可欠であり、今後、学部所属教員の削減が進む中、効率的・効果的な実施方法を模索する必要があるなど、今回の自己点検評価の中からいくつかの課題も浮かび上がってきた。

課題一つは教育現場の DX 化推進への対応である。現代教育学科においては春日井市教

育委員会の全面的な協力の下、2024 年度から同市教職員と同様の ICT 機器利用研修を学生に受講させるなどの対応を行っているが、DX のさらなる進化に対応できる教育や、そうした教育を実現するための環境整備は今後も必要である。

このほか、教職を目指す学生に対して、専門的職業人としての自覚を育む教育の在り方について、学部・学科の DP との関係をもとにした対応の充実が必要である。

中部大学現代教育学部・中部大学大学院教育学研究科

学部長・研究科長　三島　浩路

目次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色 ····· 1

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検・評価 ····· 4

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み ····· 4

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援 ····· 17

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム ····· 30

Ⅲ　総合評価（全体を通じた自己評価） ····· 46

Ⅳ　「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス ····· 46

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

1　教職課程の現況

（1）大学名：中部大学

（2）所在地：愛知県春日井市松本町 1200

（3）教職課程の履修者数及び教員数

①　教職課程の履修者数

課程等（通学）　令和 7 年度（令和 7 年 5 月 1 日現在）

【学部】

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1 年	2 年	3 年	4 年	
現代教育学部	幼児教育学科	－	幼稚園一種	68	73	70	77	288
	現代教育学科	－	小学校一種	117	89	90	103	399
		国語	中学校一種					
		数学	中学校一種					
		理科	中学校一種					
		－	特別支援学校一種					

【大学院】

研究科	専攻名	教科	免許種	教職課程履修者数		合計
				1 年	2 年	
教育学研究科	教育学専攻	－	幼稚園専修	1	2	3
		－	小学校専修			

②　教員数

【学部】

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	17	6	3		2（特任教授）
備考：別途、教職課程支援員 2 名					

【大学院】

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	15	3	1		
備考：別途、教職課程支援員 2 名					

（４） 卒業者の現況

課程等（通学）　令和６年度卒業者（令和７年５月１日現在）

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
－	幼稚園一種	5		4									
－	小学校一種					21	10						
国語	中学校一種							1	2				
数学	中学校一種							4	3				
理科	中学校一種								5				
－	特別支援学校一種											1	1

２　特色

中部大学の建学の精神および教育理念のもと、平成 20 年 4 月に 7 番目の学部として現代教育学部が設置され、幼児教育学科と児童教育学科（現「現代教育学科」2017 年 4 月 1 日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載）の 2 学科が創設された。

現代教育学部の教員養成は、本学の建学の精神、すなわち「不言実行　あてになる人間」に立脚し、「子ども一人ひとりの心に寄り添い、ともに歩んでいける、21 世紀の教育者・保育者」を目指し、幼稚園・小学校・特別支援学校・中学校（理科、国語、数学）の教員を養成することを目的としている。幼児教育学科では、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の両方を取得し、幼児教育の専門家として社会で活躍できる人材をめざしている。現代教育学科現代教育専攻では、目指す将来の目標に応じ、「小学校教育重点コース」「小学校教育＋中学校理科教育コース」「小学校教育＋特別支援教育コース」の 3 つの履修モデル、中等教育国語数学専攻では、「国語教育」「数学教育」の 2 つの履修モデルを設置し、子どもと関わる体験の中から自ら学び取る演習・実習形式の授業を数多く開講している。

本学部では、近隣市町と“相互協力の強化に関する協定”などを締結し、質の高い実地教育を提供する環境を整え、保育実習・教育実習以外にも、さまざまな機会で保育・教育の現場を体験することができる。地域の学校に出向いたり、地域の子どもたちを招いたりする学生主体のアクティブなプログラムも充実している。現代教育学部棟には、ICT 環

境の整備された講義室を始め、演劇・音楽の発表ができる多目的室、理科実験室、ピアノ練習室、図工・造形室、調理実習室などを備え、実践的な環境の中で学ぶことができる。また教職課程センター（分室）が設置されており、教育実習や学校ボランティア、教員採用試験受験などを手厚くサポートしている。このような充実した環境のもとで、幅広い教養と専門理論を学び、保育実習や教育実習など実習・演習を重視し、高い実践力の養成をはかっている。

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１－１　教職課程教育の目的・目標を共有

基準項目 1－1－①

教職課程の目的・目標を、「卒業認定・学位授与方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

〔現状〕

教職課程の目的・目標については、本学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」[1)]を基本とし、大学としての基本理念と使命ならびに教育目標[2)]、学部・学科ごとの教育研究上の目的[3)]や学部・学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー[4)]を念頭に学部・学科の特徴も踏まえて、それぞれの学科が教員養成の目標を設定し、大学ホームページで広く公表している[5)]。

現代教育学部の教員養成は、中部大学の建学の精神、すなわち「不言実行　あてになる人間」に立脚し、「子ども一人ひとりの心に寄り添い、ともに歩んでいける、21 世紀の教育者・保育者」を目指し、幼稚園・小学校・特別支援学校・中学校（理科、国語、数学）の教員を養成することを目的としている。この教員養成の目的は、「現代教育学部教職課程履修の手引き」に明示している[6)]。また、教育学研究科では、教育学・保育学、教育心理学、教科教育学の 3 つの領域を基盤とした科目を配置し、学際的、実践的な専門教育によって、多様な発達の危機に対応できる高い専門性と総合力を備えた行動な専門職業人の養成を目的としている[7)]。

幼児教育学科

幼児教育学科では、① 広い視野と温かい愛情をもった幼稚園教諭の育成　② 不言実行の態度で幼児教育に寄与する幼稚園教諭の育成　③ 幼稚園にとどまらず、多様な領域で社会貢献できる幼稚園教諭の育成、という 3 点を目指して教育の充実を図っている[8)]。

そして、教育理念を達成するため、幼児教育学科は、以下の 5 点を教育目標として掲げている[9)]。① 温かい愛情のまなざしと豊かな感性を備えた幼稚園教諭としての人間性の涵養と自己の子ども観の形成　②専門職業人としての使命感、責任感に基づいた幼児教育の専門的知識と実践的技能の習得　③ 幼児教育をめぐるさまざまな今日的・将来的課題について論じ、適切な対応を考えることができる思考力・判断力の形成　④ 幼児教育現場のニーズに対応できる教育実践力と教師としての資質向上へ意欲を持ち、自己を研鑽し続けること　⑤ 教育実践に取り組むために高い保育技術と豊かな表現力を修得し、保護者、地

域、行政、関係諸機関と連携して子どもを育てることのできるネットワークを築くことのできる力量形成

また、教育実習の意義や実習生の姿勢について、幼児教育学科の「実習の手引き」には以下のことが明確に示されている。実習は、健全な次世代の育成を「こどもの目線」から創造的に展開できる専門職業人として不可欠なもので、こどもとのかかわりを通して保育に携わる喜びを感じ､責任の重さを自覚することが期待される貴重な機会であることから、学生は実習の意義を自覚したうえで、積極的かつ責任をもって活動にあたるとともに、幼稚園教諭の礎となる子ども観や教育観を形成するよう努力する[10)]。

上述した幼児教育学科の教職課程の目的・目標および目指す教師像は、大学のホームページ、現代教育学部の Web ページ、「学生便覧」(大学・大学院)、幼児教育学科の「実習の手引き」で公表している。

現代教育学科

現代教育学科では、教育実践力、教育支援力を備えた専門的職業人の養成を目指し、教育目標として「次世代」の在り方についての深い知識、教育実践力および「人間的資質」を備えた人材を養成することを掲げている。次世代を健全に育成する人、とりわけ児童や生徒に対して温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識をもち、自らの生き甲斐として継続的に専門的知識を深め、自己の成長を追求する言行一致型の教育者を養成することを目標としている。

現代教育学科現代教育専攻には、小学校教諭、中学校教諭（理科)、特別支援学校教諭の 3 つの教職課程を設置している。現代的課題である科学教育や国際理解教育という 2 つの柱をすえて、人類の拠り所である自然とその法則を理解させ、客観的科学的思考の基礎を形成し､「理科離れ」を改善できる教員、地域の特色である外国人子女教育などに貢献する多文化共生に理解のある教員を養成する課程になっている。またコンピュータを学校教育に生かすための実践力や多様な子どもを理解しさまざまなニーズを持つ子どもへの教育支援力の養成にも力を入れている。以上のように時代に即応した特徴ある小学校教諭、中学校教諭（理科)、特別支援学校教諭等の人材を養成する教育課程である。

現代教育学科中等教育国語数学専攻には、中学校（国語)、中学校（数学）の教職課程を設置している。義務教育の基礎・基盤である国語・数学について、教科指導における高い専門性を持つ中学校教員を養成することを目標としている。中等教育国語数学専攻では、1．教科指導において確実な力を有し､「あてになる」教員　2．現代的ニーズに対応できる教員　3．地域の要請に応えられる教員　の三つを柱に据えて中学校教員の養成を行っている。中学校国語の教員養成においては、アクティブ・ラーニングなど新しい指導法を身につけ、生徒の国語力向上に指導力を発揮できる教員を養成する。それに加え、次の二点において特色を有する教員養成を行う。一つは、日本語指導が必要な生徒の多い東海地区にあって､日本語を母語としない生徒を対象に日本語学習支援のできる教員､もう一つは、「書のまち春日井」として書道文化の継承を掲げる地元春日井市にふさわしく、伝統文化の継承に貢献できる教員である。中学校数学の教員養成においては、小学校算数との接続

を見通し、数学の面白さを伝え、数学嫌いをなくして、数学の好きな生徒を伸ばせるような指導力を持つ教員を養成する。ものづくりの盛んな東海地区にあって、理数系に強い生徒を育てることは、重要な課題である。また、ビッグデータ時代に即した統計的課題、コンピュータ・ネットワークやセキュリティの問題など、現代的課題への対応力を持つ教員が中学校でも必要とされており、ICT の活用に長けた数学科教員、という特色ある教員養成を行う。

上記のような教職課程の目標・目的、目指す教師像等については、本学のホームページ[11]、現代教育学部の Web ページ、「学生便覧」(大学・大学院)、現代教育学部の「現代教育学部教職課程履修の手引き」[6] の他、校種ごとに「教育実習の手引き」[12] を作成して学生に周知している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、教育課程の目的・目標および目指す教師像は、1 年次から 4 年次までのオリエンテーションや教職関連の各授業を通して、学生に周知している。

・現代教育学科では、校種ごとに「教育実習の手引き」を作成し、教育課程の目的・目標および目指す教師像を学生に周知している。

〔改善の方向性・課題〕

・(幼児教育学科　以下 PY)「専門職業人」としての保育者観を学習や活動を通して、いかに学生に浸透させるかが課題となっている。

・(現代教育学科　以下 PJ) 各自治体が「求める教師像」は学生に意識させているが、どこの自治体も大きくは変わらない。建学の精神(「不言実行」あてになる人間を目指す)に基づき「あてになる専門職像」の一つとして「あてになる教師像」を具体化して学生に周知していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1) 中部大学学生便覧 2024 年度、学園建学の精神
2) 中部大学学生便覧 2024 年度、中部大学の基本理念・使命・教育目的、p.①
3) 中部大学学生便覧 2024 年度、学部および学科ごとの教育研究上の目的、pp.②-⑤
4) 中部大学学生便覧 2024 年度、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、pp.㉟－㊳
5) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画
6) 現代教育学部教職課程履修の手引き、p.1
7) 中部大学学生便覧 2024 年度、中部大学大学院、 p.91
8) 中部大学学生便覧 2024 年度、p.319
8) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、教育学研究科教育学専攻（幼稚園専修免)、教育学研究科教育学専攻（小学校専修免）
9) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、現代教育学部幼児教育学科（幼稚園一種免）

10）実習の手引き 2024 年、教育実習（幼稚園）の意義、p. 45
11）中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、
　　現代教育学部現代教育学科、教育学研究科教育学専攻（小学校専修）
12）教師への道－教育実習の手引き
　　特別支援学校教育実習の手引き
　　中学校教育実習の手引き

基準項目 1－1－②

育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

〔現状〕

本学では教職課程の目的・目標の共有について、毎年年度末に学科主任および教職課程運営委員会に属する教職課程担当教員を通して各学科に見直しを依頼しており、その集約した結果を毎年 5 月に更新し、大学のホームページで公開している[1)]。

現代教育学部、現代教育学研究科では、育成を目指す教師像を毎回の教授会配付資料に記載し教職員に周知している[2)]。

幼児教育学科

幼稚園教諭一種免許状取得するために必要な専門的学識の修得と実践技能の向上をもたらす「基幹的カリキュラム」を精選・集約し、体系化した教育課程を編成している。具体的には、幼児教育の基礎理論を学ぶ科目、幼児理解のための科目、実践力を養う科目、幼児教育現場のニーズに対応するための科目を配置し、体系的に学習することを通して、幼児教育の諸問題の多角的な把握の仕方やその解決方法について専門的力量を形成していけるように図っている。そのため、1 年次から現場とかかわる機会を設け、保育者として最低限必要なマナーや態度、心構えの育成に努めている。また、4 年次の教育実習に向けた専門的知識、専門的技術に力を入れて、幼稚園の見学や現職の幼稚園園長に授業や講話を依頼したりして、保育現場の実態を知り、現場感覚を養う機会を作っている。このように、教育実習に関しても他資格実習との兼ね合いや、事前の学外における子どもとの触れ合い体験の環境を設定することで体系づけている。また、体系化された教育課程を通して専門知識と実践的指導力を修得し、最終段階での教育実践演習において自己の専門性の修得状況の点検評価をし、専門性の補足、発展を図れるようにしている[3)]。

現代教育学科

教職課程教育を計画的に実施するために、教職課程を志望する学生を免許種ごとに定期的に把握し、各校種別に開催される履修オリエンテーションや教職オリエンテーションを活用しながら、教育実習、教員採用につながる指導を実施している。

3 年次からは学生を免許種に対応したゼミに配属し、指導教授（ゼミ担当教員）が学生の適性や資質・能力、履修状況などを詳細に把握しながら教育実習、進路指導を実施でき

るような体制を整えている。

〔優れた取組〕

・現代教育学部・教育学研究科では、育成を目指す教師像を毎回の教授会配付資料に記載し教職員に周知している。

・幼児教育学科では、1 年次から現場とかかわる機会を設け、保育者として最低限必要なマナーや態度、心構えの育成に努めている。また、専門性を高めるために、総合大学の強みを生かして、専門科目に加え、他学部の授業も履修できるように指導している。

・現代教育学科では、3 年次から学生を校種に対応したゼミに配属し、指導教授（ゼミ担当教員）が学生の適性や資質・能力、履修状況などを詳細に把握しながら教育実習、進路指導を実施できるような体制を整えている。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 保育現場における実習のあり方が多様化している。その現場のニーズに対応するため、記録様式 (エピソード記述型の選択的導入) や手引きの見直しを行っている。そこで、手書きとデータ入力の両方に対応できるハイブリッド方式を導入するための WG を設立し、来年度実施できるように準備に着手している。

・(PJ) 教職課程に特化した科目である教育実習指導系科目において、2024 年度より授業開始前に関係教員によるミーティングを行い、育成を目指す教師像の実現に向けた話し合いの機会を設けたが、さらにこれを定着させる必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画
2) 2024 年度　現代教育学部教授会議事次第
3) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、現代教育学部幼児教育学科（幼稚園一種免許）

基準項目 1－1－③

教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。

〔現状〕

幼児教育学科

学期ごとのオリエンテーションで、教育実習参加要件を説明するとともに、幼稚園教諭一種免許状のチェックリスト[1)]を配布し、学生に記入させている。記入したものを各教員が確認し、学生指導の際の参考材料としている。教育実習参加要件や幼稚園教諭一種免許状のチェックリスト導入・活用することによって、個々の学修成果を可視化し、自己反省や次学期の学修意欲の向上につながるように指導している。

また、学年ごとに学生自身が学修の成果を「履修カルテ」[2] に記入し、達成度を確認することによって、次学年の学修における目標を立てることを促進している。

さらに、「幼稚園教育の現場を知る」「幼児と関わる」「実習記録を書く」「実習生としての姿勢」という 4 項目を作った「実習評価票（自己評価）」[3] を教育実習の事後指導で配布し、各自で総合評価を行う。その結果を実習園の評価と比較することによって、自らの課題をより明確にすることができ、改善・向上につながるための方法を考えるように指導している。

現代教育学科

教員免許取得を目指す学生に対しては、2 年次以降、教職にかかわる授業（例:2 年次「観察実習指導」　3 年次「小学校教育実習指導」　4 年次「教職実践演習」）の時間に、履修カルテ [4] [5] への記載を通して、学生自身に教職に関連した学修の状況を振り返らせ、各自の課題や今後、重点的に学修すべき事柄を明確化させるなどしている。こうした目的で履修カルテを使用するために、現代教育学科で使用している履修カルテは、学修状況等を視覚的に把握できるような形式を採用している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、学期ごとのオリエンテーションで、教育実習参加要件を説明するとともに、幼稚園教諭一種免許状のチェックリストを配布し、学生に記入させている。教育実習の事後指導で「実習評価票（自己評価）」を配布し、各自で総合評価を行うことで、次の学びにつなげている。

・現代教育学科で使用している履修カルテは、学修状況等を視覚的に把握できるような形式を採用している。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 学年ごとに学生が記入した「履修カルテ」を次年度の目標に反映されているかを確認し、反映されていない学生には具体的な方法を提示する必要がある。

・(PJ) 履修カルテの段階的活用を目指す。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 幼稚園教諭一種免許状　単位取得チェックシート

2) 中部大学現代教育学部幼児教育学科教職課程　履修カルテ②〈自己評価シート〉

3) 幼児教育学科　教育実習指導（幼稚園）　実習評価票（自己評価）

4) 中部大学現代教育学部現代教育学科教職課程　履修カルテ（成績評価）

5) 中部大学現代教育学部現代教育学科教職課程　履修カルテ②〈自己評価シート〉

基準項目１－２　教職課程に関する組織的工夫

基準項目 1－2－①

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

〔現状〕

各学科では、「教職課程認定基準」に適合する専任教員を必要数配置するとともに、実務家教員も在籍し、研究者教員との協働体制が構築されている。各学科から教職課程担当教員１名が、教職課程運営委員会に参加して、「教職課程」専任教員や事務職員と連携して教職課程を運営している[1)]。

現代教育学部では、教職課程におけるカリキュラムの編成等の業務は、教務委員会を中心に運営されており、実習の全般に関する業務は、専任教員、実務家教員、教職課程センター事務職員と現代教育学部事務職員から構成される実習指導委員会によって行われている[2)]。

幼児教育学科

幼児教育学科では、保育士資格の実習（保育実習）も行われるため、合同で実習指導委員会を組織している。それは、実習担当教員７名（教育実習担当３名）、現代教育学部事務職員１名、教職課程センター事務職員２名から構成され、保育・教育実習にかかわる諸々の業務を担っている。教育実習に関する幹事校との連絡のやり取り、実習園の調整、検便の説明、書類の発送等事務手続きは、教職課程センターが中心となって行っている。また、実習担当教員は、学生の学修状況や実習の意思、教育実習指導の状況を常に把握し、その都度委員会で報告している。さらに、実習指導委員会には、幼児教育学科に所属している実務家教員２名が参加し、実践的指導の充実を図るとともに、春日井市やそれ以外の県や市の担当部署、実習園との連携も推進している。

このように、実習担当教員、実務家教員と教職課程センターの事務職員は、情報共有を密に図り、実習を円滑に行えるように効果的な協働体制を図っている。

現代教育学科

教員免許状の一括申請手続き等の支援や教育実習校とのやり取りに関しては、教職課程センターと教育実習担当教員が連携し、計画的に業務を進行している。また、教員採用試験に向けた学生一人ひとりの適正に応じた支援や、教育実習以外の実習（小学校教育実習に参加する前年度に、地域の小学校で「参加」「観察」を中心とした活動を、秋学期に隔週、１日８時間を基準にして実施）に関しては、現代教育学部の教職課程センター（分室）が実施主体となり、教職課程センター（分室）所属の教員・事務職員が計画的に実施している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、保育士資格の実習（保育実習）も行われるため、合同で実習指導委員会を組織しており、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

・現代教育学科では、教員採用試験に向けた学生一人ひとりの適性に応じた支援や、教育実習以外の実習に関しては、現代教育学部の教職課程センター（分室）が実施主体となり、教職課程センター（分室）所属の教員・事務職員が計画的に実施している。

〔改善の方向性・課題〕

現代教育学部に教職課程自己点検ワーキンググループを置いた。今後、委員会組織にする等、より組織的に点検・評価・作成をしていくしくみづくりが必要である。

〈根拠となる資料・データ等〉

1）中部大学教職課程規程　第 5 条

2）現代教育学部　運営組織

基準項目 1－2－②

教職課程の運営に関して全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）の教職課程担当者とで適切な役割分担を図っている。

〔現状〕

本学では教職課程の運営について、全学的組織として教職課程運営委員会を組織し、対応している。具体的には、「教職課程」専任教員、各学科の教職課程担当教員、教務支援課・人間力創成総合教育センター事務室・教職課程センター事務課の事務員をメンバーとし、課題を協議して分担し対応している[1)]。

教育実習について、教職課程センター事務課は、学生と学校や教育委員会等の間に立って事務手続きを行い、実習に関する情報を教員・学生に提供している。

幼児教育学科

幼児教育学科では、教育実習参加・履修要件を設定し、進級時に実習の可否を実習指導委員会で判断する。また、教育実習について、実習担当教員は、事前・事後指導を行い、教職課程センター事務課と協力して、常に実習情報の集約や共有を努めている。

実習期間中に、学科の全教員は指導する学生の実習先を訪問し、参加実習や責任実習を参観することによって、実習生の状況を的確に把握し、それぞれに応じた指導を行う。

現代教育学科

教員免許状の取得に関連した手続き、教育実習校とのやり取りに関しては、教職課程センターを窓口として、現代教育学部担当教員とセンター職員の連携の下、業務を行っている。また、教育実習の事前指導・事後指導といった学生の学修にかかわる領域に関しては、教職課程センター（分室）の実務家教員が中心となり、実習校の設置者である教育委員会からのニーズに対応した活動等を、教職課程センター（分室）職員と連携して実施している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、担当教員と実務家教員が教育実習の事前指導・事後指導を行い、実習前には園見学の機会を設けることで、教育実習に対するイメージを明確にしている。また、実習中の病欠、遅刻、緊急事態や補充日などについては、「実習連絡フォーム」を用いて、教員同士および教職課程センターとの情報を共有している。

・現代教育学科では、教育実習の事前指導・事後指導といった学生の学修にかかわる領域に関して、教職課程センター（分室）の実務家教員が中心となり、実習校の設置者である教育委員会からのニーズに対応した活動等を、教職課程センター（分室）職員と連携して実施している。

〔改善の方向性・課題〕

・業務の多忙さや人員不足を解消するため、繁忙期に教職課程センターの人員を増やすか、業務を外部に委託するかという体制の整備について、検討する必要がある。繁忙期については明確にする必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1）中部大学教職課程規程　第 5 条

基準項目 1－2－③

教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。

〔現状〕

本学では、コンピュータ実習室のほか、教室やラウンジ、食堂などに無線 LAN･ネットワークが整備され、随時、PC を活用することができる。図書館に、教材研究のための教科書や教育関連文献を所蔵するとともに、教職課程センター、教育実習センター前にも、教科書などの関連書籍を配置・貸し出している。

現代教育学部・教育学研究科では、高い専門能力を持つ教員、保育士を養成するため、音楽室（ピアノ室、器楽演奏室）、図工造形室、理科実験室、特別支援教育実習室、模擬保育室、小児保健実習室、小児栄養・調理実習室、演劇・音楽の発表ができる多目的室、多目的実習室等、特色のある施設を整備している。体験を通じた学びを重視しており、講義科目と並んで実験・演習・実習形式の科目をカリキュラムに多数取り入れて、各施設が授業で効果的に活用できるように整備している。施設設備の充実度について文部科学省による実地視察等の厳格な外部審査を受けており、現在、そうした審査に適合していることから、充実度が担保されている。教職課程教育を行う上での施設・設備の適切性についての点検・評価、ならびに改善・向上に向けた議論は学部委員会を中心に行っている。

幼児教育学科

図書館では、絵本コーナーを設置すると共に絵本・大型絵本等の貸し出しをしている[1)]。

70 号館 4F 第 2 準備室に、絵本や大型絵本、紙芝居、パネルシアターなどを整備し、学生が利用できるようにしている。71 号館 1F 模擬保育室に、恩物やモンテッソーリ教具、その他、保育現場にある遊具や、コーナー保育の模擬保育を実践できる机・椅子・棚などの環境を整備している。

幼稚園教育要領の改訂に伴い、「伝統文化」の学習の機会を設ける予定である。「伝統文化プロジェクト室」の活用、「伝統玩具週間」の実施を計画している。

他学部との連携により、日本の伝統文化の学習の機会を設け、伝統工芸士による講話の実施も計画している。また、学内の天文台との連携により、七夕の暦に合わせ、星や地球に関する講話の実施も予定している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科における充実した施設や学習環境が、学生の学ぶ意欲を高めるとともに、学生間の交流も促している。

・現代教育学科では、外部機関と連携して、情報端末を受講学生全員にいきわたるように整備している。これにより、学習活動の個別化や協働的な学びが促進され、授業内での ICT 活用が日常化している。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) ICT 教育環境に関して、幼児教育分野においては少しずつ改善している。現存する教育環境をフルに活用し、12 台のタブレットを使用してソフトを利用した楽譜作成や、大学と幼児教育現場とをつなぐ体験のできる活動が始まっている。しかし授業中に学生が充分に ICT 機器の体験をできるためには、1 クラス分の 1 人 1 台のタブレットがあることが、望ましい。

・(PJ) 情報端末機器の整備は進んだものの、活用方法においては学生の習熟度に差が見られる。今後は、端末整備にとどまらず、学生の情報モラル教育、学習データの活用方法などを一体的に進めることが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

1) 中部大学　附属三浦記念図書館　絵本コーナー

基準項目 1－2－④

教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）や SD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを展開している。

〔現状〕

本学は毎学期末に学生による授業評価・教員による授業自己評価を Web により各科目共通の設問内容で実施している[1)]。授業評価の結果は、今後の授業改善のための資料として、

また、教員を対象とした教育活動顕彰制度のポイントとしても活用している。

また、全国私立大学教職課程協会や東海･北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会などの研究集会や情報を FD・SD の場として活用している。

現代教育学部･教育学研究科では、現代教育学部の教員により構成される委員会として、現代教育学部社会貢献活動委員会と現代教育学部 FD&SD 委員会設置して、教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）や SD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを展開している。

「中部大学現代教育学部 FD&SD 委員会規程」に従い、規程第 1 条に示した「中部大学現代教育学部における教育・研究内容及び教育方法を改善、向上させることを目的」[2)]とした活動を、年度ごとに重点目標を設けて実施している。大学や学部が主催する FD&SD 以外、幼児教育学科では、教員の資質向上につなげるために、年度ごとに FD 会を 3 回企画し､幼児教育現場で直面している課題や政策方針の動向等に関する情報共有を図っている。毎回の参加率は 90%以上に達している。また、FD&SD 委員会は､『現代教育学部紀要』と『現代教育学研究紀要』年に 1 回ずつ発行し、教員の教育研究の成果を公開して、学内外へと発信している。

教員は活動報告自己申告書、自己評価ポイントおよび教育研究業績の提出を義務付けられ、大学が定めた基準に従って教育研究や諸々の業務の実績について自己点検・評価し、授業の改善・向上につながっていく。

幼児教育学科

愛知県保育実習連絡協議会定例総会や幼稚園実習懇談会などで得た情報を FD・SD の場で共有・活用している。

〔優れた取組〕

・現代教育学部 FD&SD 委員会は、教員の要望や教育・保育現場の諸問題に対応するための講演会を開催し、各教員が抱える問題の解決に役立てている。

〔改善の方向性・課題〕

・これまでの成果を踏まえて、他大学や協定締結校との共同企画や国際学術交流に向けての体制をどのように構築していくのかが重要な課題となる。

・教育実習における合理的配慮が問題になっており、この事項に関する理解や対応を進めていく必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1）中部大学ホームページ、学生による授業評価・教員による授業自己評価・授業改善アンケート・Cumoc

2）中部大学現代教育学部 FD&SD 委員会規程　第 1 条

基準項目 1－2－⑤

教職課程に関する情報公表を行っている。

〔現状〕

教職課程に関する情報公表については、「教員免許法施行規則第 22 条の 6」に定められた情報公開に基づき、以下の項目について毎年 5 月時点での状況をまとめ、大学ホームページで広く公表している[1)]。

1）教員の養成のための目標及び当該目標を達成するための計画
2）教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに授業科目
3）教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
4）卒業者の教員免許状の取得の状況
5）卒業者の教員への就職の状況
6）教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

現代教育学部・教育学研究科の教育理念・目標、教育課程、卒業認定・学位授与と方針等は、各教育課程に対応するかたちで設定されている。文部科学省の調査基準に適合するように、教育課程から、施設設備、教員の専門性、受講者数管理に至るまで、調査を意識して日常的に全体にわたる点検・見直しを行っている。上述した 6 つの項目について、毎年、大学ホームページ・現代教育学部 Web ページ・大学案内・入試関連資料・学生便覧に掲載され、学生に周知している。

〔優れた取組〕

・現代教育学部は教育課程から、施設設備、教員の専門性、受講者数管理に至るまで、文部科学省の調査基準に適合するように､日常的に全体にわたる点検･見直しを行っている。
・現代教育学部は毎年、大学ホームページ・現代教育学部 Web ページ・大学案内・入試関連資料・学生便覧に掲載され、学生に周知している。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 以上の 6 つに関する情報を学科会議で共有し、学科全体で教員の専門性の向上に向けた取り組みを検討している。
・(PJ) 自己点検を行った結果に関する情報共有を、教職課程担当教員を中心にして行い、組織的に不断の改善を行っていく体制を整備しつつある。高校生に向けて理解しやすい情報の提供を進めていく。

<根拠となる資料・データ等>

1）中部大学ホームページ、教員養成の状況（情報公表）

基準項目 1－2－⑥

全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつある。

〔現状〕

教職課程に関する諸問題等については全学の教職課程教員と各学科の教職課程担当教員及び事務職員から構成される教職課程運営委員会を組織し、この会議の中で意思決定をしている。教職課程の自己点検評価の実施について、2024 年度は教職課程運営委員会を 4 回開催し、準備ワーキンググループをつくって 検討・準備を進めてきた[1)]。

現代教育学部では、全学教職課程運営委員会の方針をうけて、学科ごとに 1 人の専任教員を選出し、学部長、教務主任、学科主任、事務職員と協力して、教職課程の自己点検評価に関する組織的対応の仕方を検討する会議を実施した。

また現代教育学部では、文部科学省の調査基準に適合するように日常的に全体にわたる点検、見直しを行っている（教育課程、施設設備、教員の専門性、受講者数管理など）。

〔優れた取組〕

・現代教育学部では、教職課程に関する諸問題等については全学の教職課程教員と各学科の教職課程担当教員及び事務職員から構成される教職課程運営委員会を組織し、この会議の中で意思決定をしている。

・(PY) 学科会議で自己点検評価の進捗状況や結果を報告し、教員の意見や提案を常に収集して評価に反映している。

〔改善の方向性・課題〕

・全学組織（教職課程センター）と学部・学科教職課程との連携については、本自己点検評価を通じてより一層強化される仕組みが整えられた。今後さらに教職課程センター分室との連携を生かし、この仕組みを定着させる必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1）2024 年度教職課程運営委員会第 1 回～4 回議事録

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１　教職を担うべき適切な学生の確保・育成

基準項目 2－1－①

当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を 「入学者受け入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。

〔現状〕

本学に入学を希望する受験生に対しては「中部大学大学案内」[1)] やホームページ[2)] を通して取得できる免許の種類や教職課程に関する注意事項との情報発信している。また高校生向けに開催するオープンキャンパスに向けて教職課程を紹介するパネルを作成して広く教職課程について紹介している。

現代教育学部が実施する学生募集に関しては、学部広報委員会が中心となって学部の教職課程等に関する情報をパンフレットやホームページを利用するなどして発信し、大学受験を考える高校生等が大学や学部・学科を選択するために必要な情報を提供している。また、入学者選抜に関しては、学生受入方針に沿った多様な選抜をポートフォリオ入試などで実施している。

幼児教育学科

毎年開催されるオープンキャンパスにおいて、学科主任による学科の全体説明を行い、入学生に求める学力水準、学科の特色、教職免許状の取得方法を伝えている。さらに、個別に相談する機会を設けて、入学希望者等に対して、学科の教員及び学生による紹介や説明を実施している。

入学後 4～5 月に行われる新入生オリエンテーションでは、学生便覧等の各資料に基づき、免許取得の要件を理解させたうえで、各学年が履修する教職科目、実習の参加・履修要件等を明示し、4 年間の履修スケジュールや注意事項を説明している。

現代教育学科

ガイダンスについては、現代教育学科では入学生を対象として 4 月に第 1 回教職オリエンテーションを実施している。ここで教職課程履修計画と教育実習参加条件を明示し、教職課程の仕組みやスケジュール、免許取得の要件を理解させた上で、教職を志望する意志を確認している。

〔優れた取組〕

現代教育学部では、各学科の特徴が理解しやすい各々のパンフレットを発行している。受験生や関連教育機関に、教員の研究に裏付けられた、現場のニーズに合った授業の紹介や、本学の学生や保育者養成大学の教員になった卒業生の活躍を発信し、魅力をアピールしている。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 幼児教育学科の学生が中心となり、教員の指導のもとで、学生生活や授業風景、特色あるイベント等を SNS やインスタを通じて配信して改善に努めている。

学科の様子をいかに分かりやすく楽しく高校生に伝えるか、そのための工夫が必要である。

・(PJ) 2023 年度から、高校生にわかりやすいように情報を絞った独自のリーフレットを作成し、オープンキャンパスで配布している。2025 年度以降はパンフレットの作成を計画している。

・(PJ) 高校生に向けた独自の動画の作成、インスタグラムなど時代に応じた SNS の利用等、新たな広報活動の手法を模索する。

<根拠となる資料・データ等>

1) 中部大学ホームページ、中部大学 大学案内 2024、p. 37

2) 中部大学ホームページ、教職課程

基準項目 2－1－②

「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。

〔現状〕

現代教育学部では、1 年次 4 月に各学科で開催される第 1 回教職オリエンテーションでは、取得可能な免許状に関する履修手続きの説明が行われる。以後、随時開催される教職オリエンテーションに出席することで、履修を続ける意思があると見なす。また、幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状・特別支援学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（理科、国語、数学）用のオリエンテーションはそれぞれ別に開催されるため、取得希望者はそれらのオリエンテーションに出席が必要となる [1)]。

幼児教育学科

1 年生の春学期から教職課程の科目を開講しており、1 年生は春学期オリエンテーション（履修ガイダンス）への出席を義務付けられている。履修期間中に、所定の各書類を提出しなければ、実習はできないことにしている。

また、学科は進級要件の基準を設けており、要件を満たさなければ、進級できない制度となっている。具体的に、4 期（2 年次）終了時に 52 単位以上、6 期（3 年次）終了時に 100 単位以上を修得しない者は、それ以後の授業科目を履修することはできない。進級できない学生には、実習の参加・履修も認めない。ただし、基準を満たさない学生については、担当教員による面談を行い、免許状取得の意思を確認するなどして、次年度の実習に行けるように履修指導を行っている。

現代教育学科

校種別に「教育実習履修条件」を設けており、その基準を満たさない場合は、教育実習の参加を認めない。だたし、基準を満たさない学生については各学科にて面談等を行い、

教職課程の履修の継続や進路変更に関する適切な指導が行われる。

入学時に独自のプレイスメントテスト（現代教育専攻では国社数理英の 5 教科テスト、中等教育国語数学専攻では国語または数学のテスト）を実施して入学者個々の基礎学力を把握し、春学期の指導教授との面談で結果を伝え、今後 4 年間の学修に活用するよう指導している。また、GPA で一定の基準を満たすことが教育実習参加要件の一つとなっているため、前学期の学修成果を反省しつつ次学期の学修に向かう、という流れになっている。1 年次春学期から教職課程科目を計画的に履修できるように、1 年次春学期には教職課程科目を含めた指定科目を履修するよう指導している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、毎年のオリエンテーションにおいて教育実習の履修要件を説明し、単位取得にとどまらず、実習態度や身だしなみなど、実習に臨むための心構えについても指導している。また、2 年次から毎年、実習参加の意思を確認し、教育実習事前指導の第１回目には学生に誓約書へ署名させている。さらに保証人にも実習について理解を得るため、誓約書を自宅へ送付し、署名を依頼している。

・現代教育学科では、校種別に「教育実習履修条件」を設けている。

〔改善の方向性・課題〕

・教職課程の主たる履修目的は教員免許状取得であり、教員免許状取得に関する具体的な条件を入学直後の 1 年次 4 月に入学生全員に周知するための教職オリエンテーションを行い、教職課程に関連する科目の履修や継続に関する基準等を説明している。より効果的に行えるよう毎年ブラッシュアップして実施していく。また、履修オリエンテーションでは 4 年間の学修計画を踏まえた教職課程履修指導を実施する。

<根拠となる資料・データ等>

1）現代教育学部教職課程履修の手引き、p.16

基準項目 2－1－③

「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。

〔現状〕

各学科においては、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則り学科の教育課程を編成し、豊かな教養と専門的な知識を身につけるべく教育を行っている。

現代教育学部は資格系学部であることから、入学生受け入れ方針、教育課程、卒業認定・学位授与方針等は、それぞれの学科の資格に対応するかたちでの一貫性をもっている。教育課程の特徴として教職課程・保育士養成課程をもつ本学部においては、学生数においても文部科学省・厚生労働省による実地視察等の厳格な外部審査を受けている[1)2)]。現在、そうした審査に適合していることから、適切性が担保されている。授業受講者数に関しては、クラスを 2 分割するなど、授業内容にあった受講生数管理を行っている[3)]。

幼児教育学科

幼児教育学科では、ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシーに則り学科の教職課程を編成し、保育・幼児教育のあり方についての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく教育を行っている。学生は学部共通科目を学びながら、学科専門科目も履修しなければならない。1 年生の春学期のオリエンテーションでは、新入生に履修ガイダンスの出席を義務付け、「卒業認定・学位授与の方針」をきめ細かく説明している。また、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、幼児教育学科はカリキュラムマップ（教育課程系統図）を作成し、両者の対応関係を分かりやすく明示している。

〔優れた取組〕

・現代教育学部は、教育課程の特徴として教職課程・保育士養成課程をもつ本学部においては、学生数においても文部科学省・厚生労働省による実地視察等の厳格な外部審査を受けている。現在、そうした審査に適合していることから、適切性が担保されている。
・授業受講者数に関しては、クラスを最大 3 分割するなど、授業内容にあった受講生数管理を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 教職に就く意欲の高い学生を確保することが課題である。
・(PJ) 次期の改組において定員増を検討している。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 令和 5 年度分指定保育士養成施設業務報告書
2) 実地視察大学等別報告書（中部大学）
3) 教育の方法と技術 A シラバス（同一内容の複数クラス展開）

基準項目 2－1－④

「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。

〔現状〕

幼児教育学科

学修を振り返るための指標として、「履修カルテ」が用いられる。各年次の終了時に、学生各自で「履修カルテ」に記入し、修得した資質能力を評価する。さらに 3 年次秋学期の「教育実習指導（事前指導)」、4 年次春学期の「教育実習指導（事後指導)」および「保育・教職実践演習（幼稚園)」において、「履修カルテ」が活用されている[1) 2)]。

また、学生の学修成果に関しては、幼児教育学科では、Tora-net の学修ポートフォリオを利用して履修状況・出席状況・成績評価を把握している。1 年次から担任制を導入しているので、指導教員は、学生との面談記録を Tora-net に記入し、全教員が閲覧できるようにしている。また、学科会議で学生の履修状況・学習成果に関する情報を共有し、学科全体で対応する体制をとっている。とりわけ、問題を抱える学生に対して、指導教員を中心に対応し、他の教員が協力するという形で指導を行っている。実習指導委員会では、教育

実習要件を満たしていない学生や実習成績評価が不可となった学生に対して、助言をしたり、補習を行ったりして、条件を満たすように個別指導を行っている。

現代教育学科

学生の学習成果に関して、Tora-net の学修ポートフォリオを利用して履修状況・出席状況を把握している。学生ごとに入学時に個票[3)]を作成し、面談記録やプレイスメントテストの結果等と併せて指導教授が保管している。この個票は 3 年次からの指導教授（ゼミ担当教員）に引き継ぐことで、学生情報を共有している。こうした個々の学生に対する学習成果の把握を教員が行った上で、学科会議を開催し、学科全体で履修状況・学習成果等に関する情報共有を行い、課題がある学生に対して指導教員を中心に対応し、課題がある授業等に関しては、学部教務委員会等に報告するなどして改善を図っている。学生の適性や資質に応じた教職指導は、このような指導体制の一環として行われている。

教員免許取得を目指す学生に対しては、2 年次以降、教職にかかわる授業の時間を使って行う履修カルテの記載を通して、学生自身に教職に関連した学修の状況を振り返らせ、各自の課題や今後、重点的に学修すべき事柄を明確化させるなどしている[4) 5)]。さらに、2 年次からは、教員採用試験に向け、学生一人ひとりの特性および希望（就職を希望する校種や自治体）を調べた上、特性や希望に応じた計画的・系統的な支援を、教職課程センター（分室）で実施している。具体的には、教職課程センター（分室）所属教員と学生とのスケジュール調整等を教職課程センター（分室）職員が行い、上記支援を行うための個別面接による支援や、集団面接による実践的支援等を実施している[6)]。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科の実習指導委員会では、教育実習要件を満たしていない学生や実習成績評価が不可となった学生に対して、助言や補習を通して、条件を満たすように個別指導を行っている。

・現代教育学科では、学生ごとに入学時に個票を作成し、面談記録やプレイスメントテストの結果等と併せて指導教授が保管している。この個票は 3 年次からの指導教授（ゼミ担当教員）に引き継ぐことで、学生情報を共有している。

・現代教育学科では、2 年次から教員採用試験に向け、学生一人ひとりの特性や希望に応じた計画的・系統的な支援を、教職課程センター（分室）で実施している。具体的には、個別面接による支援や、集団面接による実践的支援等を実施している。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 入学後に、人間関係や学業が原因で心身の不調を抱える学生の早期発見が課題である。

・(PJ) 学年進行に応じた履修カルテの段階的な活用を推進する。

<根拠となる資料・データ等>

1) 中部大学現代教育学部幼児教育学科教職課程　履修カルテ②〈自己評価シート〉

2) 中部大学現代教育学部幼児教育学科教職課程　履修カルテ（自己評価）

3）入学者個人面談票
4）中部大学現代教育学部現代教育学科教職課程　履修カルテ（成績評価）
5）中部大学現代教育学部現代教育学科教職課程　履修カルテ②〈自己評価シート〉
6）現代教育学科教員が 2 月 3 月に行う集団面接・集団討議指導資料

基準項目２－２　教職へのキャリア支援

基準項目 2－2－①

学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

〔現状〕

現代教育学部では、4 年生を対象に 1 年間を通して進路希望調査を定期的に行い、就職状況を随時 Web 上で公開し、就職に関する教員間・職員間の情報共有を図っている[1)]。

幼児教育学科

春学期のオリエンテーションで、新入生向けに幼稚園一種免許状を取得するために必要な履修科目および実習について、指導教員と実習担当教員による説明が行われる。また、教職課程センターは、2 年生を対象に「教育実習（幼稚園）」の実習園希望調査説明会を開催し、実習に関する諸事務手続きの説明を行っている[2)]。

幼保職に対する学生の関心をもたせるために、幼保就職説明会や教育実習指導（幼稚園）で、幼稚園の園長先生や卒業生の現職保育者に授業や講話を依頼して、現場の実態を知ってもらうための取り組みを試みている[3)]。

また、教員はゼミ生に対して定期的に面談を行い、幼保職に対する意思を確認している。進路変更を考えている学生には、相談や情報を提供したり、助言を行ったりしている。

現代教育学科

1 年次 4 月に現代教育学科で開催される第 1 回教職オリエンテーションで、取得可能な免許状に関する履修手続きの説明が行われる。以後、随時開催される教職オリエンテーションに出席することで、履修を続ける意思があると見なす。また、小学校教諭一種免許状・特別支援学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（理科、国語、数学）用のオリエンテーションはそれぞれ別に開催されるため、取得希望者はそれらのオリエンテーションに出席が必要となる[5)]。

1 年次から定期的に指導教授制による個人面談を行い、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握するよう努めている[6)]。3 年次からは学生を免許種に対応したゼミに配属し、指導教授（ゼミ担当教員）がゼミ活動を通じて指導学生の適性や資質・能力、履修状況などを詳細に把握しながら、教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、教員はゼミ生に対して定期的に面談を行い、幼保職に対する意思を確認している。1 年次から 4 年次まで全教員で対応し、各学生が自らの学びの目標を明確

に自覚できるよう支援している。
・現代教育学科では、小学校教諭一種免許状・特別支援学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（理科、国語、数学）用のオリエンテーションはそれぞれ別に開催されるため、取得希望者はそれらのオリエンテーションに出席が必要となる。
・現代教育学科では、指導教授（ゼミ担当教員）がゼミナール活動を通じて指導学生の適性や資質・能力、履修状況などを詳細に把握しながら、教職に就こうとする意欲や適性を把握している。
・教職課程センター（分室）では、教職の魅力を発信する「みんなで学ぼう会」を、実務家教員が月 4 回開催している。各回では担当教員がテーマを設定し、そのテーマに基づいて気軽に意見を交換し合うことで、教職を志す学生が互いに支え合える仲間意識を醸成している。また、この場では教職オンライン講座の紹介や、その活用方法の指導も行っている。

〔改善の方向性・課題〕
・(PY) 教職に就こうと入学してきた学生のうち、免許が取得できなかった者、または、免許を取得したものの、教職をあきらめた者に対して、それぞれの適性にあった進路指導ができるように取り組んでいきたい。
・(PJ) 各種オリエンテーション・説明会等の出席者情報を共有し、学生の意欲を把握できるようにする。

<根拠となる資料・データ等>
1) 4 年生進路状況表
2) 2024 年度保育実習・教育実習の参加・履修条件
3) 2022 年度入学生　幼保就職講座予定表
4) 保育インターンシップ説明資料
5)「観察実習」「小学校実習」の参加・履修条件
　「中学校教育実習（国語・数学)」の参加・履修条件
6) 2024 入学者個人面談票

基準項目 2－2－②
学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

〔現状〕
　各学科では指導教授やゼミ担当教員を通じて学生のニーズや適性を把握し、その情報をキャリア支援課と共有している。また、キャリア支援課では 2 年生から始まる就職ガイダンスで学生に就職活動の準備を進めるとともに、インターンシップや学内業界研究会、面接指導など行い、4 年生での就職活動のサポートをしている[1)]。
　現代教育学部・教育学研究科に特化した就職支援については、指導教授制と学部就職指導委員会、教職課程センター（分室）が連携し、強く推し進めている。学部就職支援委員会が支援を行う対象等は、(1)　保育・幼児教育に関連した就職支援活動　(2)　義務教育

学校・特別支援学校に関連した就職支援活動 (3) 保育・教職に関連した就職指導に必要な情報の収集 (4) 保育・教職に関連した就職先への学生の就職状況の把握としている[2)3)]。教職課程センター（分室）では、地域の教職経験者を活用した専任教員が常駐し、情報提供や面談など教職に関するキャリア支援が行われている。

幼児教育学科

幼児教育学科の学生を対象とした幼保対策就職講座、公務員対策就職講座、公務員 2 次 3 次人物試験対策講座、幼児教育体育指導員の資格取得講座、准学校心理士の資格講座を開設している[3)4)5)]。

幼稚園教諭一種免許状取得や就職活動、大学院進学のための学修など、卒業後の進路決定に必要なサポートについて、幼児教育学科の教員・キャリア支援課の専門スタッフ・外部機関の専門講師の 3 者が手厚くサポートする、学科独自の「トリプルサポート体制」を取っている[6)]。

外部機関の専門講師による教員採用試験対策講座に参加する場合、学生の負担軽減のため、大学から半額程度の補助がある[7)]。学科の就職指導教員や各ゼミの指導教員は、学生のエントリーシートの添削や面接指導を対面やリモートで行っている。また、幼保職ではない一般就職を希望する学生には、企業が求める知識やスキルを身に付けさせるようにキャリア支援課と連携して、サポートをしている。

現代教育学科

現代教育学科現代教育専攻では、「小学校教育重点コース」「小学校教育＋中学校理科教育コース」「小学校教育＋特別支援教育コース」の 3 つの履修モデル、中等教育国語数学専攻では、「国語教育」「数学教育」の 2 つの履修モデルを設置し、学生のニーズや適性の把握に基づいた履修指導、キャリア支援を行っている。

教職に向けた就職支援は、1 年次の初年次教育で取り組む「学習指導要領の学習」から始まる。教職に対する意志は、適切に編成された教育課程を学ぶとともに、免許種ごとの教職オリエンテーションの参加、教育実習の準備を進めることで確認している。3 年次から、職業適性検査の実施とその結果にもとづく自己理解セミナー、業種・職種理解セミナー、履歴書添削、面接指導など、実践的技術を習得する。3 年次夏には教員コースと一般企業コースに分かれて指導している[8)]。教員採用試験に向かう学生には、教職課程センター（分室）で個別面接演習、東京アカデミーによる教員採用試験対策講座、学科の教員による実技の指導、集団面接、場面指導、模擬授業の指導が行われる。このような 4 年間を通じたキャリア支援体制について、「キャリア形成マップ」[9)]を作成し、常時掲示している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、学生を対象とした幼保対策就職講座、公務員対策就職講座、公務員 2 次 3 次人物試験対策講座、幼児教育体育指導員の資格取得講座、准学校心理士の資格講座を開設しており、幼稚園教諭一種免許状取得や就職活動、大学院進学のための学修など、卒業後の進路決定に必要なサポートについて、幼児教育学科の教員・キャリア支援課の専門スタッフ・外部機関の専門講師の 3 者が手厚くサポートする、学科独自の「トリプルサポート体制」を取っている。

・現代教育学科現代教育専攻では、「小学校教育重点コース」「小学校教育＋中学校理科教育コース」「小学校教育＋特別支援教育コース」の 3 つの履修モデル、中等教育国語数学専攻では、「国語教育」「数学教育」の 2 つの履修モデルを設置し、学生のニーズや適性の把握に基づいた履修指導、キャリア支援を行っている。
・現代教育学科では 1 年次の初年次教育で取り組む「学習指導要領の学習」から就職支援が始まり、3 年次夏には教員コースと一般企業コースに分かれて指導している。教員採用試験に向かう学生には、教職課程センター（分室）で個別面接演習、東京アカデミーによる教員採用試験対策講座、学科の教員による実技の指導、集団面接、場面指導、模擬授業の指導が行われる。
・現代教育学科では、愛知県、名古屋市、相模原市等の自治体採用担当者を招き、採用試験説明会を実施している。
・教職課程センター（分室）では、3 年生を対象として「面接指導ガイダンス」、「願書指導ガイダンス」を実施し、採用試験へ臨む心構えや準備すること等について対面指導を行っている。
・教職課程センター（分室）では、面接指導をマンツーマンで実施している。教職経験のある教員が 1 日最大 10 コマの面接に対応している。
・教職課程センター（分室）では、集団面接への対応として、様々な教育課題をテーマに学生が討論を重ね学びが深められる機会を設定している。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 実習担当教員、就職担当教員とゼミ教員による個別面接、集団面接、エントリーシートの作成に対する指導を不定期に行っている。面接が何度も行われているため、教員の負担がかなり大きくなっており、業務の効果的効率化が求められる。
・(PJ) 自治体の採用試験説明会、個別の面接指導・願書の書き方指導を計画的に組織的に実施している。クラウドを活用した情報共有を進め、ひきつづき業務の効率化が求められる。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 中部大学大学案内　2024、p. 138
2) 中部大学現代教育学部資格関連就職支援委員会規程　第 2 条
3) 2024 年度　委員会活動報告書（就職支援委員会）
4) 幼児体育指導員　受領要項（中部大学）
5) 准学校心理士学生への説明資料
6) 中部大学ホームページ、中部大学のキャリア教育支援体制
7) 教職課程ガイドブック、教員採用試験対策講座、p. 33
8) 現代教育学科 3 年生に対する就職支援方針
9) 現代教育学科　キャリア形成マップ

基準項目 2－2－③

教職に就くための各種情報を適切に提供している。

〔現状〕

教職課程センターでは教員採用に向けた準備として教員採用試験対策講座の実施、東海 3 県の教員採用試験過去問題や教職関連雑誌の閲覧提供、教員採用試験受験状況の把握、教職求人情報の提供を行っている[1)]。

現代教育学部、教育学研究科では、学部内に教職課程センター（分室）を設置している。ここには教職に関する最新の情報が提供され、教職に関する各参考図書のある自習室が置かれている。

幼児教育学科

就職支援委員会を設置し、教員 4 名を担当している。求人申込書が各園から送られるとキャリア支援課のホームページと幼児教育学科の Web ページに掲載し、学生に常に確認するように周知している。これに加えて、公務員の募集案内については、幼児教育学科の Web ページに掲載するとともに、就職支援委員会から全学生向けにメール配信し、確認するように指導を行っている。各地域で開催される幼保職の説明会に関する情報も学生にメール配信している。

現代教育学科

履修科目、各種ガイダンス、教員採用試験対策講座など、4 年間を見通した教職に就くための計画を「キャリア形成マップ」[2)] として作成し、常時掲示している。また、学科ホームページに教員採用試験実施地区教育委員会のホームページをリンクさせている。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、就職支援委員会を中心に各教員も協力して就職に関するあらゆる情報を適時に学生に周知している。

・現代教育学科では、履修科目、各種ガイダンス、対策講座など、4 年間を見通した教職に就くための計画を「キャリア形成マップ」として作成し、常時掲示している。

・教職課程センター（分室）では、教員採用試験受験者からの情報をまとめた冊子を作成し、受験予定者に配布している。

・現代教育学科では、教員採用試験に向けた自主的な学びをサポートするために、「教職オンライン講座」を無料で利用できようにしている。

・教職課程センター（分室）では、現役の小学校教員を招き「日本語教育が必要な児童生徒の指導」についての講話を聴く機会を設けた。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 現代教育学部に求人票情報ボックスを設け、教育関係の求人情報をファイリグし、学生が随時に確認できるように定期的に情報を更新している。園の情報をどのように各自で収集するか、そのための方法を検討することが課題である。

・(PJ) 教職課程センター(分室)に専用の掲示板を設けて情報の提供を行っている。また、教育委員会の採用担当者による説明会なども実施しているが、継続的な取り組みが必要である。

・教員採用試験受験者からの情報を共有できる仕組みを拡大していく。

〈根拠となる資料・データ等〉

1）教職課程ガイドブック、中部大学のサポート体制、pp.6-7、
2）現代教育学科　キャリア形成マップ

基準項目 2－2－④

教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

〔現状〕

教職課程センターでは、3 年生の希望者に外部業者の運営する教員採用試験対策講座を提供している。学生の負担軽減のため、大学から半額程度の補助がある[1)]。

また、卒業生の進路アンケートを実施し、教員免許状取得者の勤務状況を把握し、本学教職課程運営および学生指導の参考としている。また、教職課程センターに寄せられた教員採用情報を掲載し、広く卒業生に対しても公表している[2)]。

幼児教育学科

幼稚園教諭一種免許状取得や就職活動、大学院進学のための学修など、卒業後の進路決定に必要なサポートについて、幼児教育学科の教員・キャリア支援課の専門スタッフ・外部機関の専門講師の 3 者が手厚くサポートする「トリプルサポート体制」を取っている[3)]。

外部機関の専門講師による教員採用試験対策講座への参加を促すとともに、学科の就職指導教員や各ゼミの指導教員は、学生のエントリーシートの添削や面接指導を対面やリモートで行っている。また、幼保職ではない一般就職を希望する学生には、企業が求める知識やスキルを身に付けさせるようにキャリア支援課と連携して、サポートをしている。

このように、学生一人ひとりの特性や状況にあった充実したキャリア支援体制で、学科の就職率は 100％を実現した。

幼児教育学科の最近の主な就職先・進学先を学科ホームページや学生便覧にも掲載し、進路を考えている学生の参考材料となっている。

また、教職課程センターや現代教育学部の Web ページに幼保職の現場で活躍している「卒業生の声」の一覧を設けている。卒業生の経験談を聞くことは、これから幼保職を目指す学生や実習や就職活動が控えている学生にとって、大いに参考になる。

現代教育学科

教職経験豊かな教職課程センター（分室）専任教員が学生の希望に寄り添い、一人ひとりにオーダーメイドの支援、教員採用試験対策や面接指導を行うなど、教員採用試験対策が充実している[4)]。上述した教員採用試験対策講座（3 年次の夏休みに教職教養講座、秋に論作文対策講座）の他、春休みには学科教員による集団面接・集団討議対策講座を実施している[5)]。また例年 1 月には「教員採用試験合格報告会」を開催し、教員採用試験に合格した 4 年生に採用試験に向けてどのような勉強をしたかなどを、下級生に話してもらっている[6)]。

〔優れた取組〕
・幼児教育学科で定められた免許に加え、現場の緊急性や実用性に対応するため、複数の資格取得の可能性を検討している。
・幼児教育学科では、数少ない公立幼稚園を学生に周知するとともに、私立幼稚園連盟のキャリアガイダンスの実施や学外で実施される就職ガイダンス等、適時に学生に周知している。
・幼児教育学科では、教員を目指すための知識や心構えを初年次教育から取り入れ、４年次まで維持できるよう、担当教員が随時個別指導を行っている。
・現代教育学科では教職経験豊かな教職課程センター専任教員が一人ひとりにオーダーメイドの支援、教員採用試験対策や面接指導を行なうなど、教員採用試験対策が充実している。また、春休みには学科教員による集団面接・集団討議対策講座を実施している。

〔改善の方向性・課題〕
・(PY) 幼児教育学科で定められた免許に加え、現場の緊急性や実用性に対応するため、複数の資格取得の可能性を検討している。まずは、比較的、安価で実用性の高い幼児安全支援法支援員（赤十字）の取得を実施することが決まった。受益者負担が少なく、実用性の高い資格について引き続き検討する。
・(PJ) ワンキャンパスの総合大学を生かした専門性の向上及び学科を超えた複数免許の取得の可能性を探る。
・(PJ) 入学時に実施している説明会をブラッシュアップし、より効果的に伝わるよう検討していく。
・(PJ) 筆記試験、面接試験への対応について、現在教職課程センター（分室）の教員で対応できる枠は、予約でほぼ埋まっている。
・(PJ) ３年生受験に対する指導方針や支援体制を固めていく。

〈根拠となる資料・データ等〉
1) 教職課程ガイドブック、教員採用試験対策講座、p. 33、
2) 中部大学ホームページ、卒業生の皆様（教員採用情報等）
3) 中部大学　大学案内 2024、p. 138
4) 中部大学 教職課程センター（分室）ホームページ
5) 現代教育学科教員が 2 月 3 月に行う集団面接・集団討議指導資料
6) 現代教育学科教員採用試験合格者発表会資料

基準項目 2－2－⑤
キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

〔現状〕

幼児教育学科

学生の実践的指導力養成と卒業生や地域連携の多様な人材との連携を図る重要な活動として、幼児教育学科では、以下の４つの活動を実施している。①「あつまれ！わんぱく隊」に関連した活動の企画・推進　②「子育てすくすく育て隊」に関連した活動の企画・推進　③「劇団くれよん」に関連した活動お企画・推進　④「幼児教育セミナー」に関連した活動の企画・推進。

新型コロナウイルスの影響により、これらの活動が十分に展開できなかったが、それぞれが工夫を凝らして、可能な範囲での活動を実施した。

毎年の就職説明会で、卒業生数名を招き、4 年生を対象に、「卒業生の話を聞く会」を開催している。また、現職の保育者をゲストスピーカーとして迎え、授業を行うことによって、実習に対する学生の不安・心配を減軽する一方、現場の実態を知ることになり、自分が選んだ職業の意味を改めて深く考えるようになる。

「卒業生連絡係」を決め、卒業生の状況を把握すると共に、「幼児教育セミナー」などの卒業生を対象とした活動への参加勧誘をしている。

現代教育学科

全国で教職に就いている卒業生を取材し、その活躍する姿や後輩へのメッセージなどを現代教育学部ＨＰに掲載している。また、愛知県や名古屋市で教職に就いている卒業生の活躍する姿や後輩へのメッセージ等を現代教育学部のパンフレットに掲載している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、卒業生及び地域の保育者を対象とした「幼児教育セミナー」に卒業生や現場の保育者たちが数多く参加している。実践と理論の往還を目指すこのセミナーは、保育者が抱えている問題に対して考える視点を提供することによって、キャリアアップにつなげる役割を果たしている。

・卒業生組織化を推進している。これまで毎年卒業生の中から 1 名の学年の学年代表者を選出し、その卒業生を経由して SNS を使って繋がりを維持している。今年度もその組織を通して春と秋の 2 回担当教員が Google フォームを使って近況や所属の情報を集約し、学科で共有する。

・現代教育学科では、全国で教職に就いている卒業生を取材し、その活躍する姿や後輩へのメッセージなどをＨＰに掲載している。

〔改善の方向性・課題〕

・幼児教育学科では、毎年開催される「幼児教育セミナー」に、より多くの卒業生や保育者が参加できるよう工夫する必要がある。

・現代教育学科では、地域ごとに同窓会の組織化を検討している。

〈根拠となる資料・データ等〉

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

基準項目　３－１　教職課程カリキュラムの編成・実施

基準項目 3－1－①

教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。

〔現状〕

本学では、各学期に CAP 制を採用しており、現代教育学部は 1～3 年生で 24 単位、4 年生は 20 単位としている。

現代教育学部・教育学研究科の教職課程は、他学部の教職課程から独立して運営されており、卒業までに修得すべき単位を有効活用したカリキュラムを編成している。現代教育学部のカリキュラムは学部共通科目と学科専門科目に分かれている。学部共通科目には、「教育ドラマ演習」「レクリエーション実技」「器楽演奏実技」など実践的な科目が多く用意されている。

幼児教育学科

幼児教育学科では、幼稚園教諭一種免許状の取得を目指して、それに必要な学年進行に沿って効果的に配当し、保育者への道、子ども理解、子ども支援の実践力、子どもを取り巻く社会とその社会のもつ課題について、1 年次から段階的に学ぶことのできるカリキュラムを構成している。

幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、教育職員免許法で定められた「基礎資格」と、同法施行規則に定められた科目（「教育の基礎的理解に関する科目」「領域及び保育内容の指導法に関する科目」「大学が独自に設定する科目」）についての単位を取得する必要がある。学生はそれぞれの科目を全学共通教育科目及び学部教育科目を通して学んでいく。また、学部教育科目は、学部共通科目と学科専門科目から構成される。学部共通科目として、1 年次の「多文化共生と教育」、「人権教育論」という基礎科目と、3 年次の「地域フィールドスタディ」、「レクリエーション演習」などの実践科目が開設されている。学科専門科目は、基幹科目、発展科目と実習科目から構成され、1 年次から学んでいくカリキュラムになっている。基幹科目は必修科目 12 単位を含めて 24 単位以上、そして発展科目は、必須科目 2 単位を含めて 26 単位以上取得する必要がある [1)]。

現代教育学科

現代教育学科のカリキュラムは、学部共通科目と学科共通科目、専攻専門科目とに分かれている。現代教育専攻の専攻専門科目は、基幹科目と小学校教育科目、中学校理科教育科目、特別支援教育科目に、中等教育国語数学専攻の専攻専門科目は、基幹科目と中学校国語教育科目、中学校数学教育科目とに分かれている。各免許種に応じた専攻専門科目の中から小学校教諭、中学校教諭（理科・国語・数学）は 59 単位以上、特別支援学校教諭は 27 単位を免許状取得に必要な最低修得単位数としている [2)]。

〔優れた取組〕

・現代教育学部・教育学研究科の教職課程は、他学部の教職課程から独立して運営されており、卒業までに修得すべき単位を有効活用したカリキュラムを編成しているため、複数免許状の習得を可能にしている。

〔改善の方向性・課題〕

・幼児教育学科では、教員免許を取得しやすくするため、学部共通科目カリキュラムのスリム化を検討している。

・現代教育学科では、複数の専攻間の複数の教職課程において同一内容の科目が各々に開設されているため、複雑な教職課程カリキュラムとなっている。令和 3 年に複数の学科等の間における科目の共通化の範囲が拡大されたことを受け、専攻間における科目の共通開設を実施した。引き続き検討し複雑化を解消する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1）中部大学学生便覧 2024 年度、幼児教育学科、pp. 319-333、現代教育学部教職課程、pp. 353-365

2)中部大学学生便覧 2024 年度、現代教育学科、pp. 334-352、現代教育学部教職課程、pp. 353-365

基準項目 3－1－②

学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

〔現状〕

今日の学校教育を強く意識した「教職課程コアカリキュラム」に対応したカリキュラムを実施している。

現代教育学部・教育学研究科では、学生便覧に各学科および専攻ごとの CP（カリキュラムポリシー）を明示している。学生便覧に記載した CP（カリキュラムポリシー）に連続する頁に、それぞれの学科および専攻の DP（ディプロマポリシー）も示し両者の対応関係が分かるようになっている [1)]。さらに、CP（カリキュラムポリシー）で示した内容を具現化した科目を体系化した教育課程を学年進行に合わせて示した「教育課程系統図」を学科および専攻ごとに作成している [2)]。

幼児教育学科

近年、家庭や地域社会の教育力の衰退など社会状況の変化に伴い、就学前の幼児教育が抱える問題が複雑・多様化している。そうした状況を強く意識した「教職課程コアカリキュラム」対応したカリキュラムが実施されている。

〔優れた取組〕

・現代教育学部は今日の学校教育を強く意識した「教職課程コアカリキュラム」に対応したカリキュラムを実施している。

・現代教育学部は、学生便覧に各学科および専攻ごとの CP を明示している。学生便覧に記載した CP に連続する頁に、それぞれの学科および専攻の DP も示していることで、両者の対応関係が分かるようになっている。さらに、CP で示した内容を具現化した科目を体系化した教育課程を学年進行に合わせて示した「教育課程系統図」を学科および専攻ごとに作成している。

〔改善の方向性・課題〕

・特別支援学校教職課程においては令和 4 年に策定された「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム」に対応した教職課程について、点検・見直しを（24PJ　達成）したが、次期の改組に向けて、教職課程コアカリキュラムに対応したカリキュラムの構築を検討する必要がある。

・幼児教育学科では、保育領域だけにとどまらず、社会全般に目を向け、保育を取り巻く環境についても考えている。そのため、カリキュラムの実施において、社会の著しい変化に対応する視点を常に意識しながら、保育の問題を捉える資質を育む必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1）中部大学学生便覧 2024 年度、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー㉟-㊳

2）中部大学学生便覧 2024 年度、現代教育学部、pp. 319-352

基準項目 3－1－③

教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。

〔現状〕

「教職課程コアカリキュラム」と愛知県教員育成指標におおむね対応したカリキュラムを実施している。「教職課程コアカリキュラム」も今日の学校教育への対応を求めるものであり、それぞれの科目の意義にもとづき、今日の学校教育に対応する内容を編成している[1)]。

幼児教育学科

幼児教育学科では、今日子どもや家庭が抱える数多くの問題に対応するために、「学びのポイント」を以下の 2 つ挙げている[2)]。①幼児教育に関する理論的な学びと現場での体験学習の両方を 4 年間かけて十分に取り組み、乳幼児の成長やその発達支援についての専門的知識やスキル、実践研究に必要な力を修得する。②1 年次の段階から現場での子どもとのふれあい体験を行うとともに、音楽・造形・身体・言語表現を体験的・統合的に学ぶ機会を通して、創造的表現力を徹底的に高め、乳幼児から慕われる“魅力”を磨く。幼児教育現場のニーズに対応するための科目を配置し、1 年次から 4 年次まで体系的に学習していく内容を構成している。具体的には、1 年次は教育の基礎を学びつつ、表現技能を修得する。2 年次は実習とともに保育内容や支援に関する科目を学修する。3 年次は保育をめぐる現代的な課題と専門分野の学びを深める。そして 4 年次は幼稚園での教育実習と卒業研

究による専門性を追究する。

現代教育学科

現代教育学科では、「科学的思考力」「ことばの力」「課題探求力」という 3 つのキーワードをもとにして授業を構成し、特色あるカリキュラムを編成している。こうした授業のほかに、観察実習、学校インターンシップ、学校支援ボランティア、教職実践演習など多様なフィールドでの活動を行い、“教育の今”に触れつつアクティブな教師に必要なスキルを体験的に向上させるよう指導している[3)]。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、教育現場の課題に対応できるように、授業の運営方法を改善してきた。例えば、食育への関心の高まりを踏まえ、「子どもの食と栄養Ｂ」の授業では、2 コマ連続で編成し、調理実習や試食などが行える十分な時間を確保することで、学生の深い学びを促した。

・現代教育学科では、「科学的思考力」「ことばの力」「課題探求力」という 3 つのキーワードをもとにして授業を構成し、特色あるカリキュラムを編成している。

・現代教育学科では、2024 年度より、新規科目「特別支援学校教職インターンシップ」を開設し、2 年次から特別支援学校の現場で学べる環境を整えた。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY)幼児教育には経験豊かな実務家教員が多数在籍している。現場での経験を生かし、今日の課題に対応するためのカリキュラム編成の可能性を検討することが、今後の課題である。

・(PJ) 東海地域の教員養成指標をカリキュラムに取り入れていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1) 中部大学 2024 年度シラバス
2) 中部大学大学案内　2022、p.145
3) 中部大学現代教育学部現代教育学科　ホームページ

基準項目 3－1－④

今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

〔現状〕

現代教育学部では、教育コンピュータ活用等の情報系実習科目においては、TA と協力して授業を進めている。ここでは主に工学研究科の大学院生に協力を求め、主にネットワーク、ソフトウェアの活用において専門的な立場からのサポートを受けている。

幼児教育学科

スキル教育科目に関しては、全学共通教育科目の「情報スキル入門」、「情報スキル活用」が受講できる。現代教育学部では、1 年次春学期に「教育統計学基礎」、3 年次秋学期に「教育統計学」を開講している[1)]。いずれの科目において、情報活用能力の指導が行われており、これらの科目を受講することによって、幼児教育現場で求められている ICT 機器の活用能力を身に付けることが充分可能となる。

現代教育学科

現代教育専攻では、プログラミング教育に対応した活動を取り入れた実践的な授業を行っている。また中等教育国語専攻では、電子黒板を用いる模擬授業を学生自身が経験する場を設け、ICT 教育に強い教員を育てている。中等教育数学専攻では、デジタル教材を自在に作る力を身に着け、ICT 教育に強い教員としての計算機活用に関する実践的な学びの場を用意している。

〔優れた取組〕

・(PJ) 現在の学生は GIGA スクール構想で１人１台端末が実現する前に義務教育を終えた世代であり、ICT 機器活用の経験もない。2024 年度より春日井市教育委員会の全面的な協力を得て、教育実習の前段階（科目名「観察実習指導」）における活動の一部として、春日井市立の小中学校教員と同じ内容の ICT 機器利用研修会を実施している。

・(PJ) 企業と連携し、受講学生全員に情報端末を提供した授業を展開している。

・(PJ) 外部関係機関と連携して情報端末機器の整備を進め、学生一人ひとりが端末を利用できる環境を整えつつある。これにより、学習活動の個別化や協働的な学びが促進され、授業内での ICT 活用が日常化した。

〔改善の方向性・課題〕

幼児教育学科では、情報に関する専門科目の学習に加え、各教員が担当している科目において、ICT を活用した資料収集・分析や発表方法などの指導を行っている。例えば、保育内容指導（音楽表現）では、タブレットを用いてソフトによる楽譜作成の実技指導を行い、ICT に触れる機会を多く取り入れている。しかし、台数が限られているため、授業中に学生が十分に練習できない状況にある。１人１台のタブレットを提供できるかどうかが、今後の課題となる。

地元春日井は ICT 機器活用の先進地域なので、春日井の ICT 教育推進教員から学ぶ場をさらに増やしたい。

・(PJ) 教科指導法科目について、授業内の指導では不十分であり、2024 年度は教育実習指導で春日井市立小学校内において研修を加えた。

・(PJ) 学生の情報モラルを育成する取り組みを授業内で含める。

<根拠となる資料・データ等>

1) 中部大学学生便覧 2024 年度、p. 330

基準項目 3－1－⑤

アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

〔現状〕

教職課程に限らず、本学の授業では個人またはグループでそれぞれの課題を設定し、調査・発表を行い、その後ディスカッションをする形式の授業が数多く開講されており、これを受講することで課題発見や課題解決等の力量を育成している。

現代教育学部では、学生の主体的な参加を促す授業形態として、将来の職業に直結した演習（小・中学校等における授業を想定した模擬授業、幼稚園・保育所等での活動を想定した模擬保育）や、グループ・ワークの手法を取り入れた授業を、どの学年においても実施している。

幼児教育学科

幼児教育学科のディプロマ・ポリシーは、保育・幼児教育のあり方についての理論と技能を身に付けた専門職業人となるべく基礎的な能力・資質を修得することを目標としている。この目標を達成するために、カリキュラムマップによって教育内容のコースを配置して授業を実施している。また、主体的学びの力を伸ばすために、アクティブ・ラーニングの要素を多く取り入れている。学修課題に合われた適切な授業形式（講義、演習、実習など）を系統的に組み合わせた教育課程を展開することで学生の主体的な学びを促すことを教育方法として掲げている。そのため、初年次のスタートアップセミナーをはじめ、多くの授業では、アクティブ・ラーニングやグループディスカッションの形式を取り入れ、学生の情報収集力、課題設定力、プレゼンテーション力および思考力・判断力・表現力の育成に力を入れている。

現代教育学科

現代教育学科では、「科学的思考力」「ことばの力」「課題探究力」という 3 つの力の育成を教育の基本方針としている。これらの力を育成するため、特色あるカリキュラムを編成し、アクティブ・ラーニングやグループワークを促す工夫が多くの授業で取り入れられている。「課題探究力」においては、3 年次から少人数できめ細やかな研究指導を行い、3 年間の成果として「課題研究発表会」として発表の機会を設け、集大成としての「卒業研究」に結実させている [1)]。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、初年次のスタートアップセミナーをはじめ、多くの授業で、アクティブ・ラーニングやグループディスカッションの形式を取り入れ、学生の情報収集力、課題設定力、プレゼンテーション力および思考力・判断力・表現力の育成に力を入れている。

・現代教育学科では、「科学的思考力」「ことばの力」「課題探究力」という 3 つの力の育成を教育の基本方針とし、「課題探究力」においては、3 年次から少人数できめ細やかな研究指導を行い、3 年間の成果として「課題研究発表会」として発表の機会を設け、集大成としての「卒業研究」に結実させている。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 教育指導において、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れて、授業をいかに再構成するか、その方法を検討する必要がある。

・(PJ) 教職実践演習の少人数授業の中で、構成的グループ・エンカウンターの手法を取り入れた演習を行うなどして、将来、教職に就いた後、アクティブ・ラーニングやグループワークを学生が行えるようさらに充実させていく。

・(PJ) 教科研究や教科教育法でも、演習を強化する。

・(PJ) ICT を活用した対話的なグループ討論を一層推進し、定着を図る。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 中部大学　現代教育学部現代教育学科　ホームページ

基準項目 3－1－⑥

教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。

〔現状〕

教職課程に限らず、本学はシラバスにおいて各科目の授業計画（毎回の内容）や授業方法、成績の評価方法及び評価基準を学生に明示している。

現代教育学部・教育学研究科では、現代教育学部では、教育課程の編成・実施方針にそった授業内容となっているのか、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示しているかという視点で、毎年、学部内ですべての授業のシラバス点検を行っている。

シラバスには、授業の主旨および達成目標、各科目の授業計画（毎回の内容、授業外学習)、成績の評価方法および評価基準を学生に明示している[1)]。すべての授業の単位認定基準は、各科目のシラバスに明確に記載され、「達成目標」「評価方法」も明示されているため、受講生は受講前に単位認定基準と「評価方法」を確認することができる。また、成績評価後、学生は、成績評価に疑義がある場合は、成績疑義申立期間中に書面で申し入れて、担当教員に確認を願い出ることができる。

幼児教育学科

シラバスの記載内容に関しては毎年、シラバス点検の機会を設けて、文部科学省の規程に基づいて、点検をきめ細かく実施している。

複数授業担当者により成績評価を行う場合には、それぞれの担当部分に成績をつけたうえ、担当者全員による照合会議を実施し、評価の客観性・厳格性を保証する組織的な仕組みができている。

〔優れた取組〕

・毎年、学部内ですべての授業のシラバス点検を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 幼児教育学科では、各科目の授業計画を初回授業でシラバスにしたがって、学生に詳細に説明しており、さらに、病欠や欠席等の対応方法も明示しているが、個別指導を組み合わせる必要がある。

・(PJ) 初回授業で、プリントを配布するなど詳細な内容の明示と説明を全科目での実施を徹底する。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 中部大学　ホームページ　学びでみる中部大学　授業計画（シラバス）

基準項目 3－1－⑦

教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

〔現状〕

幼児教育学科

幼稚園教諭一種免許状を取得するために必要な教育実習に参加・履修する必要がある。そのため、学生便覧の幼児教育学科「4. 履修受の注意（4）保育実習・教育実習について」の実習参加要件を設定している。その内容は以下のとおりである。①各実習の参加履修条件で定められた単位取得又は履修している者　②各実習科目に必ず出席し指導を受けている者　③保育者を目指す積極的姿勢と学習意欲が認められる者　④心身ともに健康で実習に支障を来たさない者　⑤実習に必要な手続きを終えている者[1)]。

以上の履修要件以外に、「実習の手引き」には、さらに以下の 4 点を付け加えている。①保育職・教職を目指す意欲があり、授業を良好な態度で受講していること　②保育実習・教育実習に関連するすべての事前・事後指導に良好な態度で参加し、欠席していないこと　③大学が指定する健康診断・検査（抗体価検査・腸内細菌検査）・予防接種を指定された期間内に行うこと　④大学等が求める実習に関する書類は期日までに提出すること（誓約書の内容を遵守）[2)]。

教育実習（幼稚園）は 4 年次春学期に 4 週間実施する。事前指導は 3 年次秋学期、事後指導は 4 年次春学期に行う。

現代教育学科

小学校教育実習は 5 期（3 年次春学期）に 4 週間以上行う。小学校教育実習を履修するためには、3 期（2 年次春学期）に行う観察実習指導を履修し、4 期（2 年次秋学期）に行う観察実習を履修して単位を取得しなければならない。さらに、小学校教育実習と同年度に行う小学校教育実習指導（3 年次春学期）を履修しなければならない。なお、上記の実習等に関しては、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「小学校教育実習履修条件」を満たしている必要がある。

特別支援学校教育実習は、7 期もしくは 8 期 （4 年次）に 2 週間行う。本教育実習を

履修するためには、小学校教諭一種免許状の取得予定者であることに加え、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「特別支援学校教育実習履修条件」を満たしている必要がある。

中学校教育（理科）実習は、8 期（4 年次秋学期）に 3 週間行う。中学校（理科）教育実習を履修するためには、同年度に行う中学校教育実習指導（4 年次,夏期集中講義）を履修しなければならない。また、本教育実習を履修するためには、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「中学校（理科）教育実習履修条件」を満たしている必要がある。

中学校教育（国語・数学）実習は、6 期（3 年次秋学期）に 3 週間行う。中校教育（国語・数学）実習を履修するためには、同年度に行う中学校教育実習指導（3 年次,夏期集中講義）を履修しなければならない。また、本教育実習を履修するためには、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「中学校（国語・数学）教育実習履修条件」を満たしている必要がある[3) 4)]。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、「幼稚園教諭一種免許状　単位取得チェックリスト」を用いて、実習の参加履修要件を満たしているかどうかの確認を 3 年次からのオリエンテーションで行っている。単位不足の学生に対して、学科全体で情報を共有し、面談などの個別指導を実施している。

・幼児教育学科では、毎年実習を終えた「先輩体験談」を実施することで、実習に対するイメージをより具体化していくことができ、心配事や実習に向けた準備や心構えなどもできた。

・小学校教育実習を履修するためには、3 期（2 年次春学期）に行う観察実習指導を履修し、4 期（2 年次秋学期）に行う観察実習を履修して単位を取得しなければならない。さらに、小学校教育実習と同年度に行う小学校教育実習指導（3 年次春学期）を履修しなければならない。なお、上記の実習等に関しては、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「小学校教育実習履修条件」を満たしている必要がある。

・特別支援学校教育実習を履修するためには、小学校教諭一種免許状の取得予定者であることに加え、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「特別支援学校教育実習履修条件」を満たしている必要がある。

・中学校（理科）教育実習を履修するためには、同年度に行う中学校教育実習指導（4 年次,集中講義）を履修しなければならない。また、本教育実習を履修するためには、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「中学校（理科）教育実習履修条件」を満たしている必要がある。

・中校校（国語・数学）教育実習を履修するためには、同年度に行う中学校教育実習指導（3 年次,集中講義）を履修しなければならない。また、本教育実習を履修するためには、GPA や取得科目等を定めた所定の条件「中学校（国語・数学）教育実習履修条件」を満たしている必要がある。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 毎年、教育指導を受講する学生に対して、履修条件や「実習手引き」で定められた

諸条件を満たしているかを確認し、その情報を学科全体で共有している。
・(PY) 毎年、教育実習を辞退する学生が一定数いる。辞退者を減らすために、早い段階から学生の進路を把握し、適切な対策を講じる必要がある。
・(PJ) 毎年、履修要件の見直しを行い、学科会議で審議し決定する必要がある。
・(PJ) 履修要件の到達状況を示す学生の名簿を学科全体で共有する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>
1) 中部大学学生便覧 2024 年度、p. 321
2) 実習の手引き 2024 年　p. 1
3) 中部大学学生便覧 2024 年度、p. 365
4) 現代教育学部　教職課程履修の手引き　p. 18-21

基準項目 3－1－⑧
「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

〔現状〕
幼児教育学科
各年次の終了時に、学生各自で「履修カルテ」[1] に記入し、修得した資質能力を評価する。さらに 3 年次秋学期の教育実習事前指導、4 年次春学期の事後指導および教職実践演習において、「履修カルテ」が活用されている。
現代教育学科
4 年次春学期末までに、小学校教育実習・中学校教育実習・特別支援学校教育実習は概ね完了することから、こうした実習の中で、学生一人ひとりが課題として意識した事柄等について、学生が履修カルテ [2] に記載した内容を教員が参照するなどして、4 年次秋学期の教職実践演習授業開始時期までに確認する。こうした確認作業を通して、多くの学生が課題とした共通項（例 1:個別的な支援が必要な児童・生徒への通常学級内における支援。例 2:児童・生徒の積極的な発言を促す「発問」の仕方。例 3:実験やグループ活動の活性化）を主要なテーマとして、それぞれの領域に専門性をもつ実務系教員が教職実践演習の授業を少人数指導の形式で実施している。履修カルテは、免許種ごとに作成している。

〔優れた取組〕
・現代教育学科では、実務系教員が教職実践演習の授業を少人数指導の形式で実施している。

〔改善の方向性・課題〕
・幼児教育学科では、各年次終了時に履修カルテに記入されている各項目において、改善していくための方法等について、事前事後指導に各自やグループで検討するための時間を

設けて、それぞれの問題点をより明確にさせていく必要がある。
・(PJ)自己評価の機会は設けているが、履修カルテを活用した指導には工夫の余地がある。

<根拠となる資料・データ等>
1）中部大学現代教育学部幼児教育学科教職課程　履修カルテ②<自己評価シート>
2）中部大学現代教育学部現代教育学科教職課程　履修カルテ②<自己評価シート>

基準項目　３－２　実践的指導力育成と地域との連携

基準項目 3－2－①

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。

〔現状〕

幼児教育学科

幼児教育学科のディプロマ・ポリシーは、社会で必要とされる知識・技能、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力、そして主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度といった基礎的な能力・資質などを身に付けることを目標としている。その目標を実現するために、正課、正課外教育において保育・幼児教育の場で適用できる指導力・実践力を向上させることが求められる。さらに、実践的指導力を高める教育方法として、幼稚園、保育所、子育て支援センター等の保育・幼児教育機関と連携を取りながら 1 年次から 4 年次まで系統的に体験的学修の機会を設けることが明示されている。

スタートアップセミナーは、全学共通の指針に基づき、授業を展開している。初年次教育対象学生を 4 つのグループに分け、各グループ 3 名（1 グループのみ 2 名）の教員による少人数の教育を行っている。大学における学びの道筋を明らかにするため、全学共通指針に含まれる内容に加えて、幼児教育の現状を理解し、保育者に関する興味や関心を持てるよう、幼児教育に関連する新聞記事の要約、絵本の読み聞かせ実技などを実施した。

1 年次秋学期の「教育研究入門 A」では、保育園の実際の様子を具体的に理解するために、春日井市内の全面協力のもと市内８つの公立保育園で園見学を実施している。また、園長との質疑応答の時間を設けることで、学生の理解をより一層深めている。

現代教育学科

各教科に関する科目において、教育実習を予定している教科等の指導案の作成とそれを用いた模擬授業の指導を行い、実践的指導力の育成を図っている。また、2015 年度より春日井市教育委員会との連携活動により、中部大学近隣の公立小学校へ出向き、小学 4～6 年生を対象に「なるほど！子どもアカデミー　土曜チャレンジアップ教室」を開催し、学生の実践的指導力を育成している。学生は小学生のさまざまな分野における学習の支援ができるよう、大学の正規の授業以外にも時間をかけて準備している。その準備には、学校教育の専門家である学科の教員たちがバックアップしている。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、４つのボランティア団体の活動と幼児現場をつなぐ Y-project の活動を通して、地域との連携を強化し、実践を通して身についた指導力の育成を目指している。また、春日井市子育て子育ち総合支援館と連携し、子どもたちに遊びのイベントを提供している。

・幼児教育学科では、学生が授業中に作成した絵本 POP カードを春日井市図書館に展示できるように担当者と協議している。

・幼児教育学科では、愛知県や春日井市周辺自治体と連携し、「放課後児童健全育成事業」に関連した職員を授業のゲストスピーカーとして招いて、各自治体の取組を学生に紹介している。

・現代教育学科では、春日井市教育委員会との連携活動により、中部大学近隣の公立小学校へ出向き、小学 4～6 年生を対象に「なるほど！子どもアカデミー　土曜チャレンジアップ教室」を開催し、学生の実践的指導力を育成している。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 幼児教育学科では、保育における専門用語を授業の一環として取り入れ、定期的にテストを行うことで、実習記録における誤字の減少を目指し基礎的知識の習得を促している。

・(PJ) 基礎的事項の確認を重視し、板書、かな、漢字の書き方を特に力を入れて指導している。

・(PJ) 模擬授業など、実践的指導力を育成する機会を拡充する。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 中部大学現代教育学部ホームページ　「なるほど！子どもアカデミー」

基準項目 3－2－②

様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

〔現状〕

現代教育学部では、学部開設当初から大学所在地である春日井市（春日井市教育委員会）において、社会連携・社会貢献活動を実施するための協定（地域教育活動連絡協議会規約）を結び、諸活動を発展的に継続している [1)]。春日井市を含めたより広範囲な地域との社会連携および社会貢献を実施するために、社会貢献活動委員会を学部内に設け「(1)「わんぱく隊」 に関連した活動の企画・推進　(2)「子どもアカデミー」に関連した活動の企画・推進　(3)「すくすく隊」に関連した活動の企画・推進　(4)「劇団くれよん」に関連した活動の企画・推進（5）上記活動相互に関する調整、および広報活動の企画・推進」という 7 活動を具体的に明示して、それぞれの活動を推進している [2)3)]。これらの活動に参加した学生は各活動内において振り返りの機会が与えられる。またこれらの活動について、年

度末に委員会報告として学部教員に共有される[4)5)]。

幼児教育学科

全学で実施するインターンシップ活動に加えて、保育所や幼稚園でのインターンシップを実施する科目を 4 年次に開講し、就職を意識して学生の受講を促している。

現代教育学科

インターンシップ活動に関しては、教職を目指す 4 年生を対象とした学校ボランティア活動、特別支援学校教職課程を履修する 3 年生を対象とした特別支援学校教職インターンシップなど、学科の特性に応じた就職先に対応する活動を積極的に展開している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科には４つのボランティア団体があり、地域の子どもや保護者との交流を積極的に行うことで、自らの学びを深めている。また、活動後に必ず反省会を実施し、次の活動へとつなげる機会としている。これらの活動は PDCA サイクルを実践する学習となっている。

・春日井市（春日井市教育委員会）において、社会連携・社会貢献活動を実施するための協定（地域教育活動連絡協議会規約）を結び、障がい者が地域で学ぶ機会創設のためのサッカー教室などに学生を派遣し、共に学び合う活動を発展的に継続している。

・現代教育学科では、教職を目指す 4 年生を対象とした学校ボランティア活動、特別支援学校教職課程を履修する 3 年生を対象とした特別支援学校教職インターンシップを展開している。

・現代教育学科では、面接指導の機会にも学びの内容を述べて自己アピールにつなげている。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) ボランティア活動の成果がより多くの人に知ってもらえるように、学生が大学内で開催される ESD・SDGs 研究活動発表会に参加し、積み重ねてきた実績を外に向けて発信している。今後、学外の発表会にも参加するように促す。

・(PJ) 教育実習に参加する前に、ボランティア活動（例：観察実習、土曜チャレンジアップ教室等）として春日井市内の小中学校等へ学生を派遣し、体験活動を行っている。この振り返りシートや記録を作成させるなどして、ボランティア活動で取り組んだことの自覚的な振り返りを定着させる必要がある。

・(PJ) 25 年度から、これまで 3 年生を対象として実施してきた課外活動「特別支援学校教職インターンシップ」を、2 年生対象の科目として円滑に開始できるよう検討する。

・(PJ) 通常の学級における特別支援教育のニーズの高まりに対応できるよう、小・中いずれの免許種においても特別支援教員免許状が取得できる体制を整える必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1)春日井市地域教育活動連絡協議会の設置に関する協定書

2)中部大学現代教育学部パンフレット　pp.5-6、p.8、p.12

3)中部大学現代教育学部社会貢献活動委員会規定
4)2024 年度委員会活動報告書
5)2024 年度中部大学現代教育学研究所研究発表会プログラム

基準項目 3－2－③

地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

〔現状〕

現代教育学部が企画・推進しているボランティア活動「わんぱく隊」「子どもアカデミー」「すくすく隊」「劇団くれよん」は、地域の子どもを対象としており、学生が地域の子どもの実態を理解する機会となっている[1)]。

幼児教育学科

幼児教育学科では、講義や学科が開催している就職説明会や「幼児教育セミナー」に現職の保育者や幼保職に就いている卒業生に来てもらって、学生と交流を作る機会を設けたりしている。

現代教育学科

観察実習、特別支援学校インターンシップ、教育実習事前指導における学校訪問などで学生に小中特別支援学校での活動を与え、地域の子どもの実態教育実践の最新の事情を理解する機会を設けている。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、「あつまれ！わんぱく隊」や「子育てすくすく育て隊」「劇団くれよん」といったボランティア活動を通して、子どもたちにどういう活動を提供したらよいかを学生自ら企画・準備・実施することで、子どもの実態を深く理解することにつながっている。
・「あつまれ！わんぱく隊」「劇団くれよん」は、現代教育学科と幼児教育学科の学生によって構成され、幼小連携を意識した活動に取り組んでいる。
・海外との連携を積極的に推進している。2024 年に「劇団くれよん」が初めて海外公演を実現し、子ども理解の視野を広げた。韓国で実施した公演には 400 人以上の子どもや保育者が鑑賞し、大きな好評を得た。
・(PJ) 教職課程センター（分室）で新聞の切り抜きをテーマごとにまとめ、コピーして配布したり、討論で使用したりしている。
・(PJ) 教職課程センター（分室）で新聞の切り抜きをテーマごとにまとめ、コピーして配布したり、討論で使用したりしている。

〔改善の方向性・課題〕

・(PJ) 春日井市立中学校における学習ボランティアや春日井市立小学校における ICT 研修を授業内容に組み込むことで、モティベーション高く地域の学校で学ぶことができた。

こうした活動の拡大と体系化をさらに検討する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1）中部大学現代教育学部パンフレット　pp. 5-6

基準項目 3－2－④

大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

〔現状〕

毎年 1 月に開催される愛知県教育委員会の主催する「教育実習受入れに関する打合せ会」に参加し、実習校からの反省点や要望を持ち帰り、教職担当教員と共有することで、次年度以降の事前指導に活かしている。また、その際に次年度の「教育実習受入れ要項」が配布されるので、要項に従って申込み等を行っている。

現代教育学部・教育学研究科では、学部開設当初から大学所在地である春日井市（春日井市教育委員会）において、社会連携・社会貢献活動を実施するための協定（地域教育活動連絡協議会規約）を結び、諸活動を発展的に継続している [1)]。

現代教育学科

教職課程センター（分室）は、教育委員会・小学校のニーズを把握し、ボランティア活動が学校教育に少しでも貢献できるようにするなど、春日井市をはじめとした地域の教育委員会との連携をさらに増進し、教育に関する地域連携の窓口として機能している。

〔優れた取組〕

・春日井市（春日井市教育委員会）において、社会連携・社会貢献活動を実施するための協定（地域教育活動連絡協議会規約）を結び、諸活動を発展的に継続している。
・教職課程センターは、教育委員会・小学校のニーズを把握し、ボランティア活動が学校教育に少しでも貢献できるようにするなど、春日井市をはじめとした地域の教育委員会との連携をさらに増進し、教育に関する地域連携の窓口として機能している。

〔改善の方向性・課題〕

・(PY) 教育実習協力校との交流・連携を図り、情報共有をしている。特に出身学生が多い岐阜県の公立園との連携を今後強化していく必要がある。
・(PJ) 春日井市をはじめとした教育委員会と、地域連携協議会等を通じさらに信頼関係を構築するよう努める必要がある。
・(PJ) 観察実習（2009 年～）の実施にあたっては、春日井市教育委員会に実習校の集約を依頼している。15 年以上かけて大学の評価は年々上がってきており、今後も継続して協力が得られるよう努める必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

1)春日井市地域教育活動連絡協議会の設置に関する協定書

基準項目 3－2－⑤

教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。

〔現状〕

教育実習について、教職課程センター事務課は、学生と学校や教育委員会等との間に立って事務手続きを行い、情報を集約して各方面に提供している[1)]。

幼児教育学科

幼児教育学科では、実習指導委員会の教育実習担当教員が、教職課程センターの事務課と協力して、実習調査説明会を開き、実習人数を把握する。また、実習園調整会に参加し、そこで得た情報をもとに、学生指導を行っている。

調整会で実習園の調整が困難な場合、実習指導委員会にて受け入れ先を検討し依頼する手続きを行う。

現代教育学科

教育実習以外の教育現場における活動（「観察実習」等）に関して、当該市教育委員会と現代教育学科教員が、毎年、実施状況や課題等について情報共有を行うための協議会を実施している。さらに、こうした活動に参加する学生に対しては、教職課程センター（分室）が窓口となり、学生の出席状況の確認等を実施している。

〔優れた取組〕

・幼児教育学科では、実習指導委員会の教育実習担当教員が、教職課程センターの事務課と協力して、実習調査説明会を開き、実習人数を把握し、そこで得た情報をもとに、学生指導を行っている。
・愛知県私立幼稚園連盟と連携し、連盟が組織する「キャラバン隊」を学校に招いて講演会を開催し、私立幼稚園に関する各種の情報を学生に提供している。
・現代教育学科では、教育実習以外の教育現場における活動に関して、当該市教育委員会と現代教育学科教員が、毎年、実施状況や課題等について情報共有を行うための協議会を実施している。

〔改善の方向性・課題〕

・現代教育学部の教員は、実施校を訪問して中部大学の特長やカリキュラムについて紹介したり、学生の取り組みから大学に要望することを伺ったりして実習指導に反映させている。これを途切れることなく継続させていく必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1）中部大学ホームページ　教職課程センター

Ⅲ．総合評価（全体を通じた自己評価）

学科所属教員が教職課程センターと情報交換するなどして、自己点検評価により明らかになった課題に対応するなど、教職を目指す学生に対する支援を積極的に進めている。

具体的には、幼児や児童を対象としたボランティア活動の機会を多くの学生に提供することにより、実践的な指導力向上を目指したり、教育実習の円滑な推進に向けたミーティングを計画的に設定したりするなど、広範な視点から教職課程全般の充実を図っている。

しかし、学生の就職先である幼稚園や都道府県教育委員会等に関する情報提供の方法や、教育現場の DX 化推進に対応した支援の強化などについてはいくつかの課題が残った。

Ⅳ　「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

8 月 7 日　両学科教職課程運営委員打ち合わせ〔教職課程運営委員〕
　評価点検用書類の作成
9 月 10 日　主任会
　ワーキンググループの構成および報告書作成スケジュールについて
9 月 17 日　教授会
　ワーキンググループの構成および報告書作成スケジュールの提案・承認
9 月 18 日～30 日　学科ごとの報告書の作成〔ワーキンググループ〕
　各学科ワーキンググループ会議の開催
　学科単位でまとめた報告書の作成
10 月 1 日～10 月 15 日　報告書（案）の作成〔教職課程運営委員〕
　学部単位でとりまとめた報告書（案）の作成
10 月 15 日～10 月 20 日　根拠資料の収集等および報告書（案）の点検〔事務長〕
　根拠資料の収集、確認、保管および報告書（案）の点検
10 月 20 日～23 日　「総合評価」「全体評価」の記載〔学部長〕
　学部長による報告書（案）の点検及び「総合評価」「全体評価」の記載
10 月 25 日　第一次提出　〔教職課程運営委員〕
　副学部長に報告書（案）を提出
11 月 1 日～12 日　内容確認期間〔主任会〕
　学部単位で取りまとめた報告書を主任会で内容確認
11 月 12 日～11 月 19 日　内容確認期間〔教授会〕
　教授会で共有、承認
11 月 19 日～25 日　作成プロセス〔教職課程運営委員〕
　作成プロセスの記載
11 月 25 日　報告書の提出〔副学部長〕
　教職課程センターへ提出